

第2章 地域・社会動態の整理

1 市の人口動態・地理的条件・施設立地状況等の把握

京田辺市の地域概況を把握するため、下記に示す項目についての指標を整理しました。

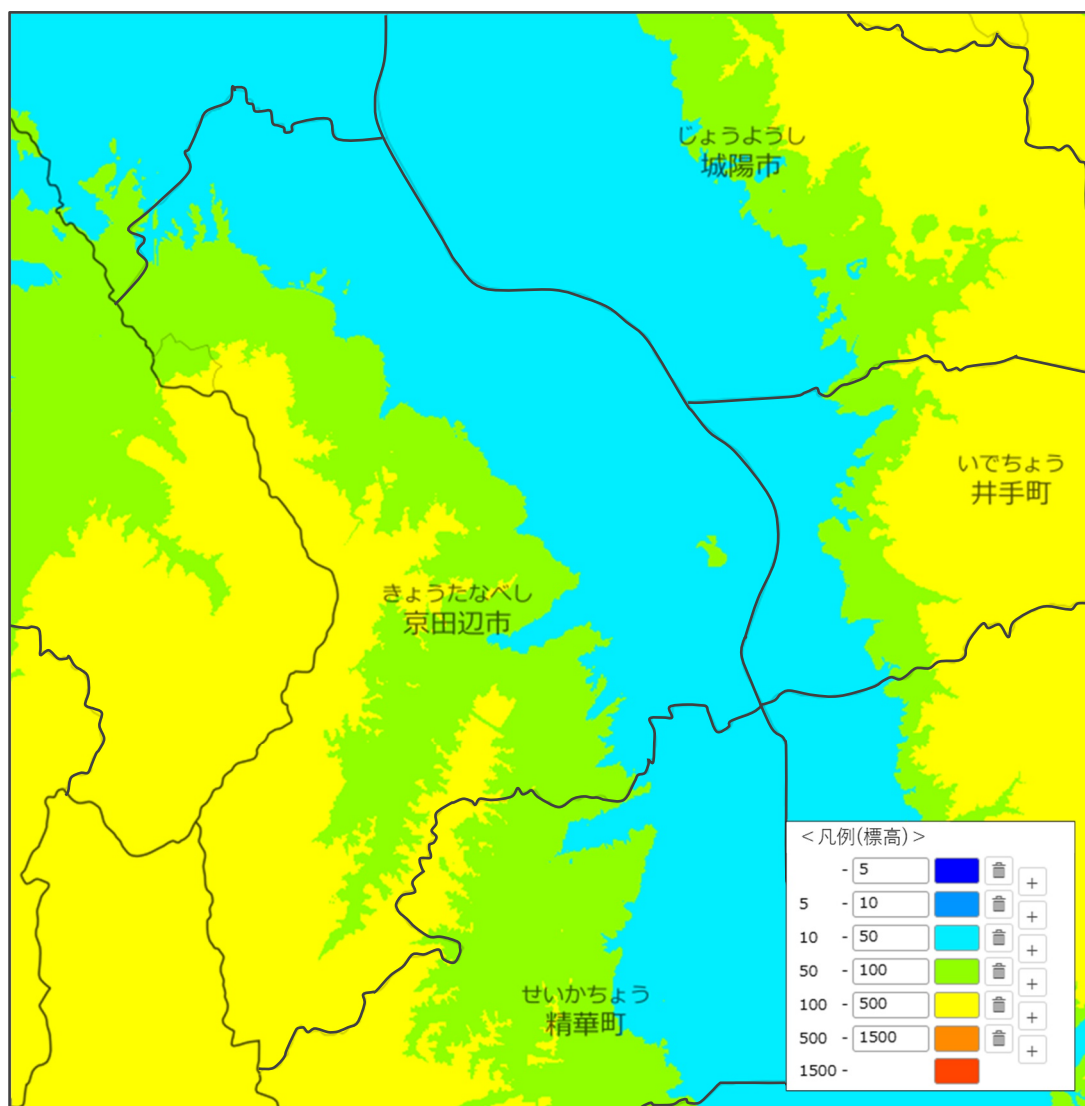
表 地域概況の整理項目

大項目	中項目	小項目
1.1 位置・地勢	(1)京田辺市の地勢	
	(2)土地利用	
	(3)地域設定について	
1.2 人口特性	(1)人口動態	1)年齢階層別人口
		2)高齢化率・後期高齢化率
		3)地域別人口推移
		4)地域別人口推移コーホート分析
	(2)人口分布	
	(3)高齢化分布	
	(4)人口集中地区	
	(5)人口流出入	
	(6)通勤通学流動	1)通勤流動
		2)通学流動
(7)通勤・通学の利用交通手段		
1.3 施設立地	(1)公共施設・教育施設	
	(2)商業施設・工業地区	
	(3)医療施設・高齢者福祉施設	
	(4)子育て支援施設	
1.4 観光動向	(1)観光施設	
	(2)観光入込客数	
1.5 道路現況	(1)道路現況	

1.1 位置・地勢

(1) 京田辺市の地勢

- ・京田辺市は、京阪奈丘陵の北端部に位置し、市東側半分が木津川左岸側に広がる平野、市西側半分が丘陵地で形成されています。



出典：地理院地図

図 京田辺市の地勢

(3) 地域設定について

本計画では地域を次の7つに設定して、データ整理を行いました。

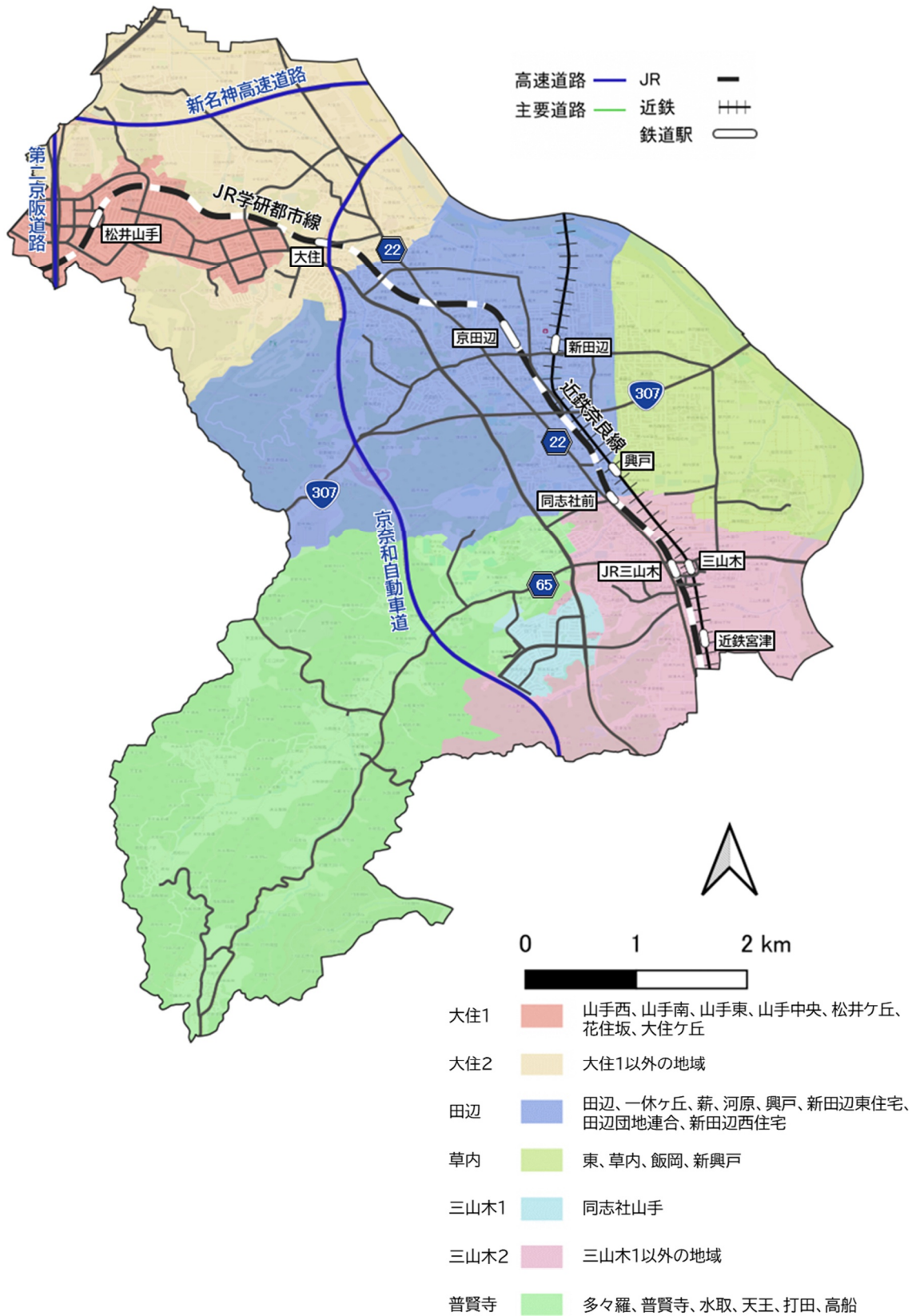


図 地域設定した地域の位置

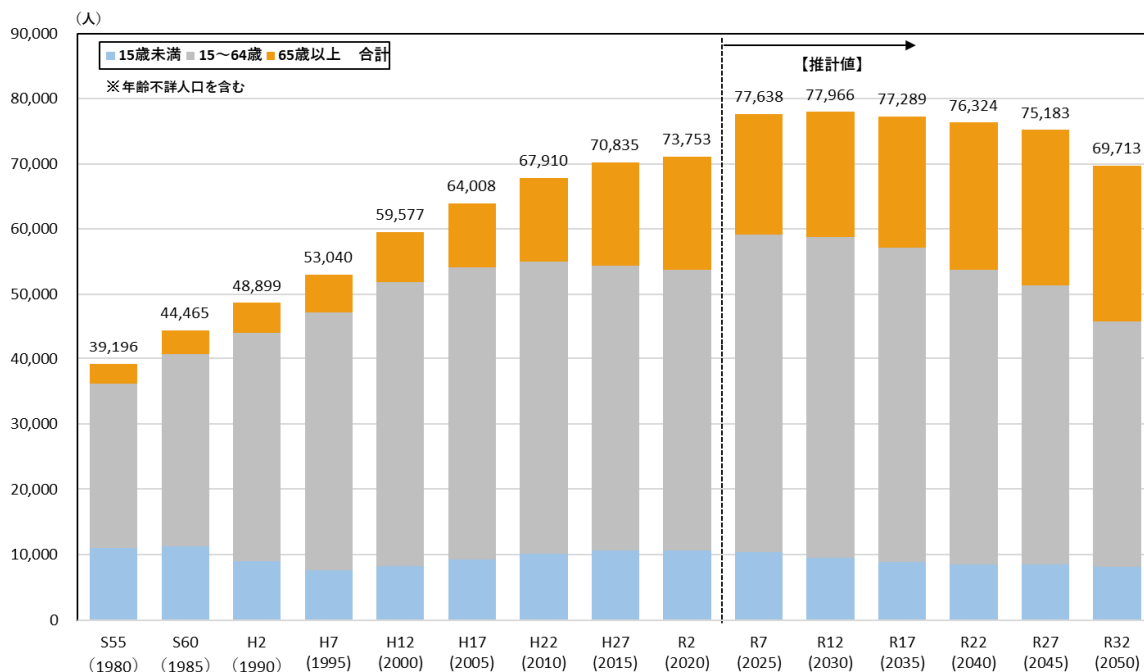
1.2 人口特性

京田辺市の人口推移および年齢分布などの人口特性を整理しました。
整理した結果を以下に示します。

(1) 人口動態

1) 年齢階層別人口

- ・人口は、昭和 60 年（1985 年）以降増加し続けており、令和 2 年（2020 年）時点で 73,753 人となっています。
- ・将来人口推計では、令和 12 年（2030 年）頃まで人口が増加しますが、それ以降は緩やかに人口が減少します。さらに、65 歳以上の人口の割合が急速に高まります。

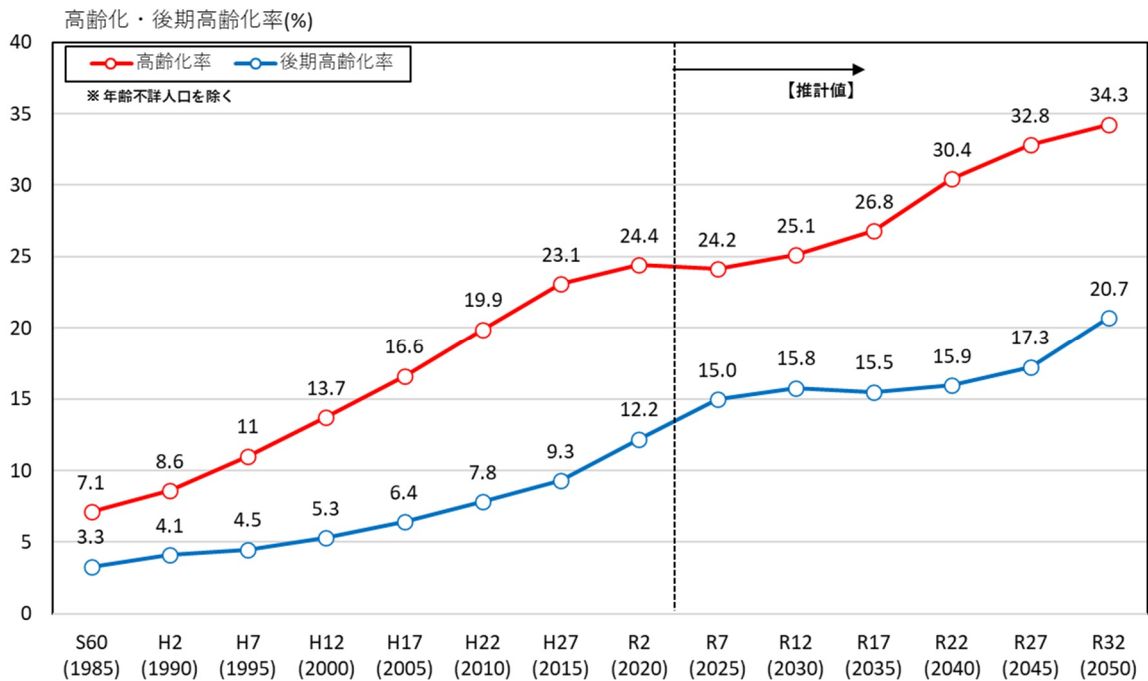


出典：国勢調査(昭和 55 年～令和 2 年)、国立社会保障・人口問題研究所(令和 5 年度推計)(令和 7 年～令和 32 年)

図 年齢階層別人口の推移

2) 高齢化率・後期高齢化率

- ・65歳以上の高齢者人口が増加しており、令和2年（2020年）の高齢化率は24.4%まで増加しています。
- ・今後、10年程度は高齢化率の急激な上昇は見られませんが、令和12年（2030年）から高齢化率が上昇し、令和22年（2040年）には高齢化率が30%を超えるとされています。



出典：国勢調査(昭和55年～令和2年)、京田辺市将来人口推計(令和5年度推計)(令和7年～令和32年)

図 高齢化率・後期高齢化率の推移

3) 地域別人口推移

- ・大住1地域の人口は横ばいとなっており、65歳以上の割合は増加傾向です。
- ・大住2地域の人口は増加傾向となっており、65歳以上の割合も増加傾向です。
- ・田辺地域の人口は横ばいとなっており、65歳以上の割合は増加傾向です。
- ・草内地域の人口は減少傾向となっており、65歳以上の割合は増加傾向です。

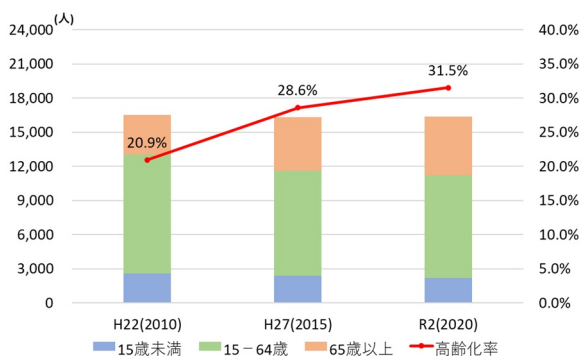


図 大住1地域の人口推移

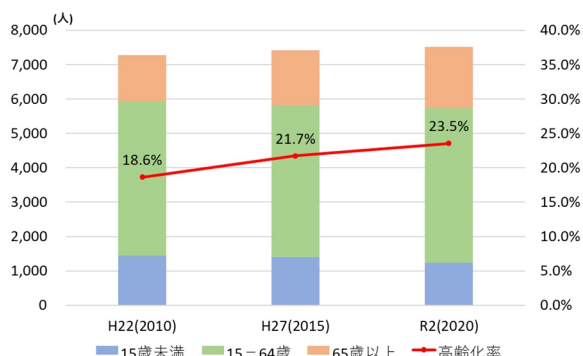


図 大住2地域の人口推移

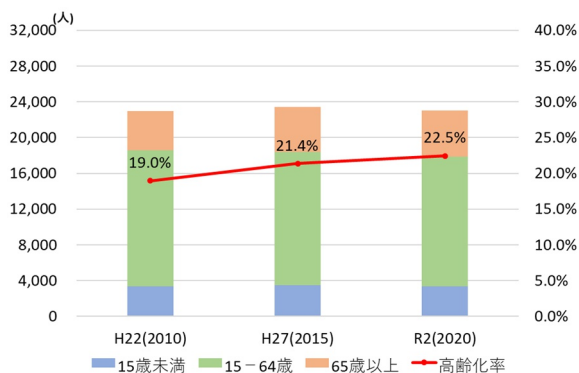


図 田辺地域の人口推移

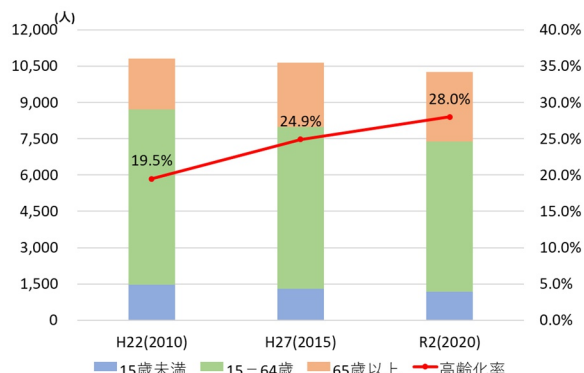


図 草内地域の人口推移

- ・三山木1地域の人口は増加しており、65歳以上の割合も増加しています。
- ・三山木2地域の人口は減少傾向となっており、65歳以上の割合は増加傾向です。
- ・普賢寺地域の人口は減少傾向となっており、65歳以上の割合は増加傾向です。

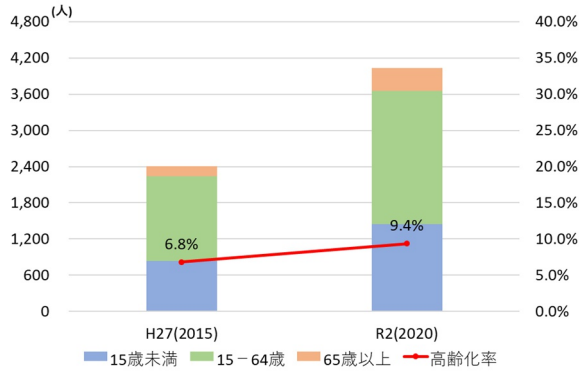


図 三山木1地域の人口推移

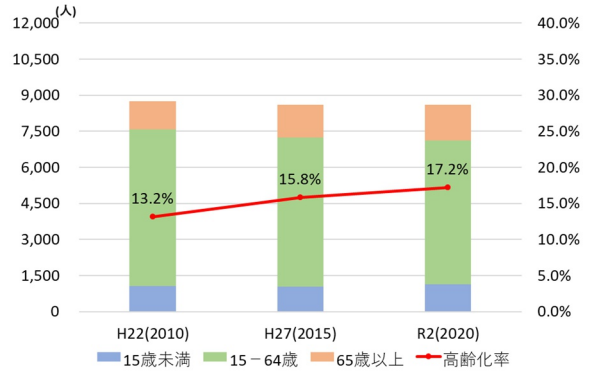


図 三山木2地域の人口推移

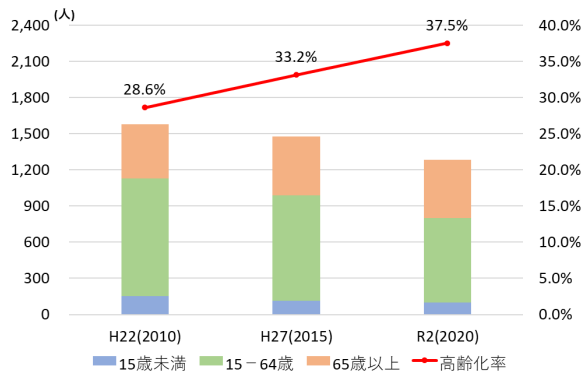


図 普賢寺地域の人口推移

出典：国勢調査(平成22年～令和2年)

4) 地域別人口推移コーホート分析

a. 平成22年⇒令和2年の増減

- ・大住1地域の人口推移は10歳代及び35～49歳の人口が増加しています。一方、20～34歳の人口は減少しています。
- ・大住2地域の人口推移は10～14歳及び35～49歳の人口が増加しています。一方、15～29歳の人口は減少しています。

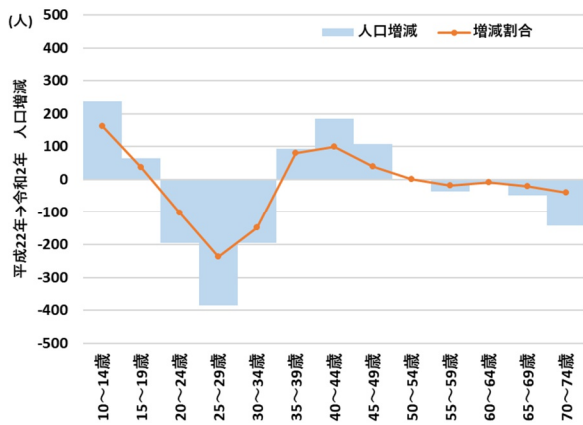


図 大住1地域の人口推移コーホート

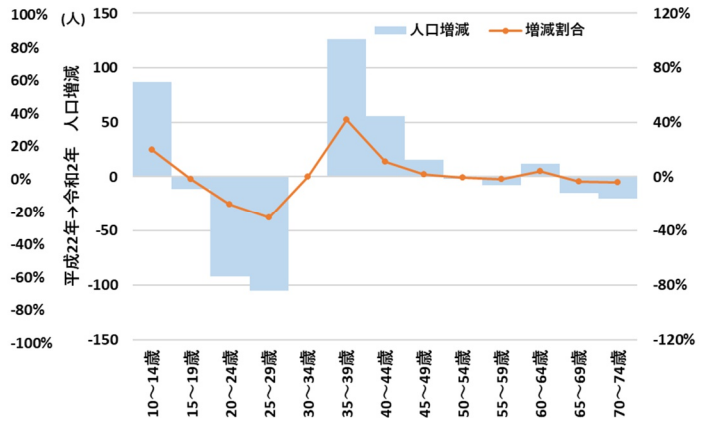


図 大住2地域の人口推移コーホート

- ・田辺地域の人口推移は24歳以下及び35～59歳の人口が増加しています。一方、25～34歳の人口は大きく減少しています。
- ・草内地域の人口推移は25～34歳の人口が減少しており、子育て世代の流出が顕著となっています。

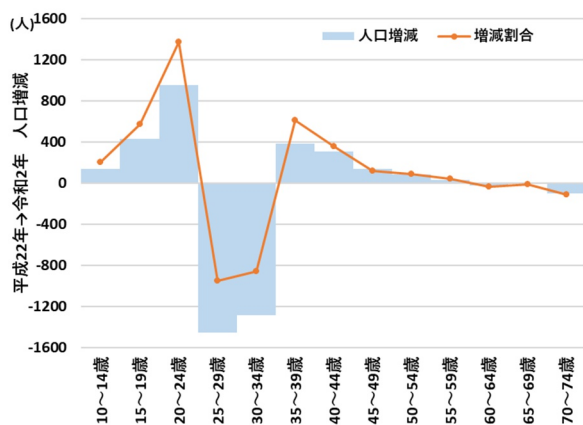


図 田辺地域の人口推移コーホート

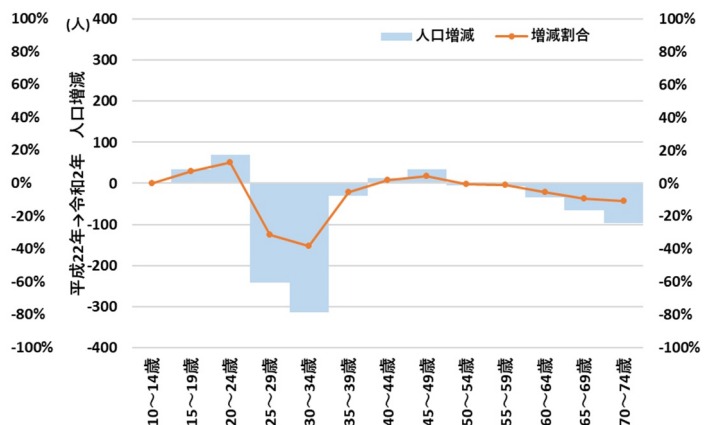


図 草内地域の人口推移コーホート

- ・三山木2地域の人口推移は24歳以下の人口推移が大きく増加し、25～34歳の人口が大きく減少しています。
- ・普賢寺地域の人口推移は20～30歳代の人口が大きく減少し、その他の世代でも人口が減少しています。

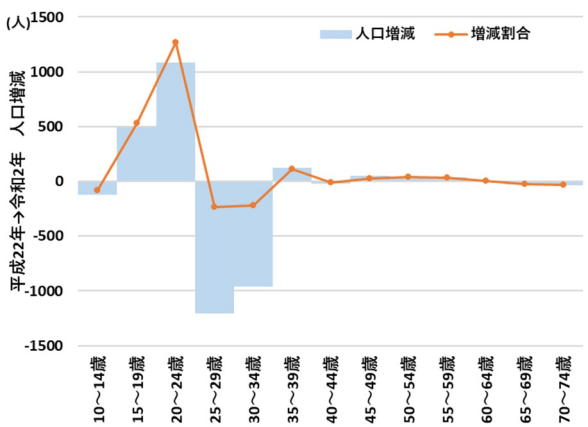


図 三山木2地域の人口推移コーホート

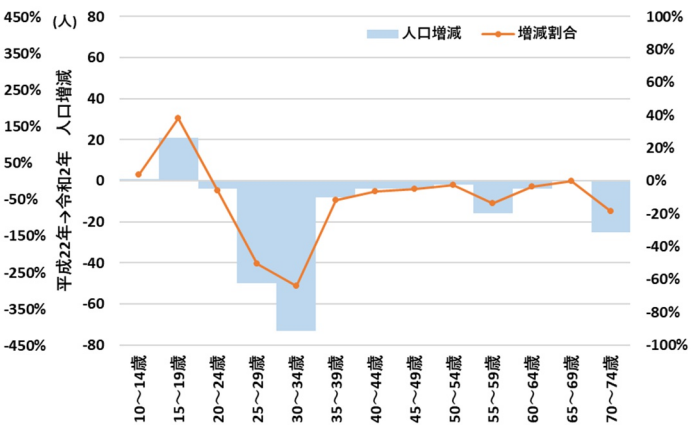


図 普賢寺地域の人口推移コーホート

※三山木1地域については平成22年データがないため比較不能

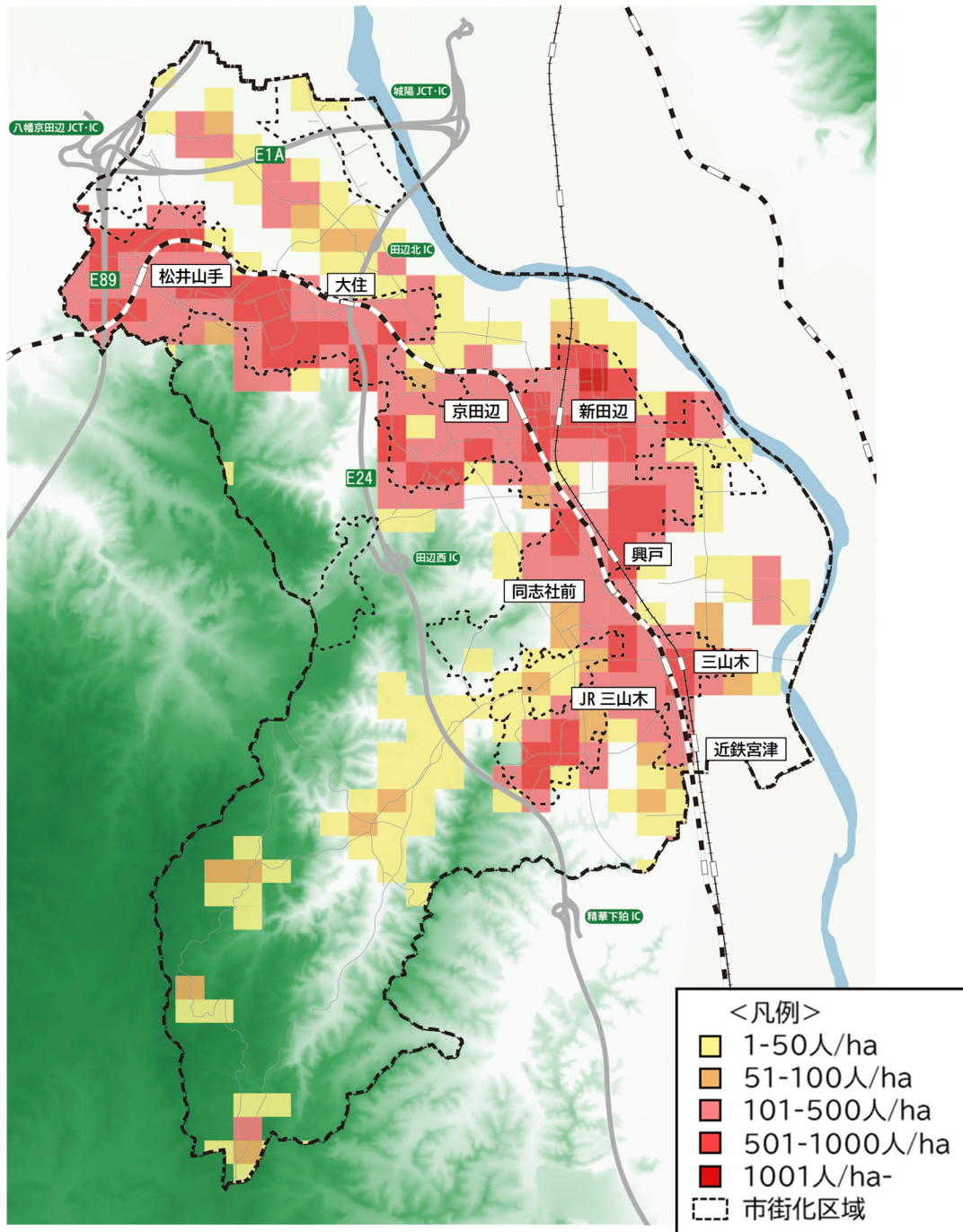
出典：国勢調査(平成22年～令和2年)

Check! コーホート分析とは

同時に出生した集団(コーホート)の、ある期間の人口の変化を捉えることで将来人口を推計する方法です。例えば、ある年の20～24歳人口は5年後には25～29歳となるが、その間の実際の人口動態を分析し5年後の25～29歳人口増減推計しています。

(2) 人口分布

・ JR 京田辺駅・近鉄新田辺駅、JR 松井山手駅、JR 三山木駅・近鉄三山木駅を中心として鉄道沿線の人口密度が高くなっています。

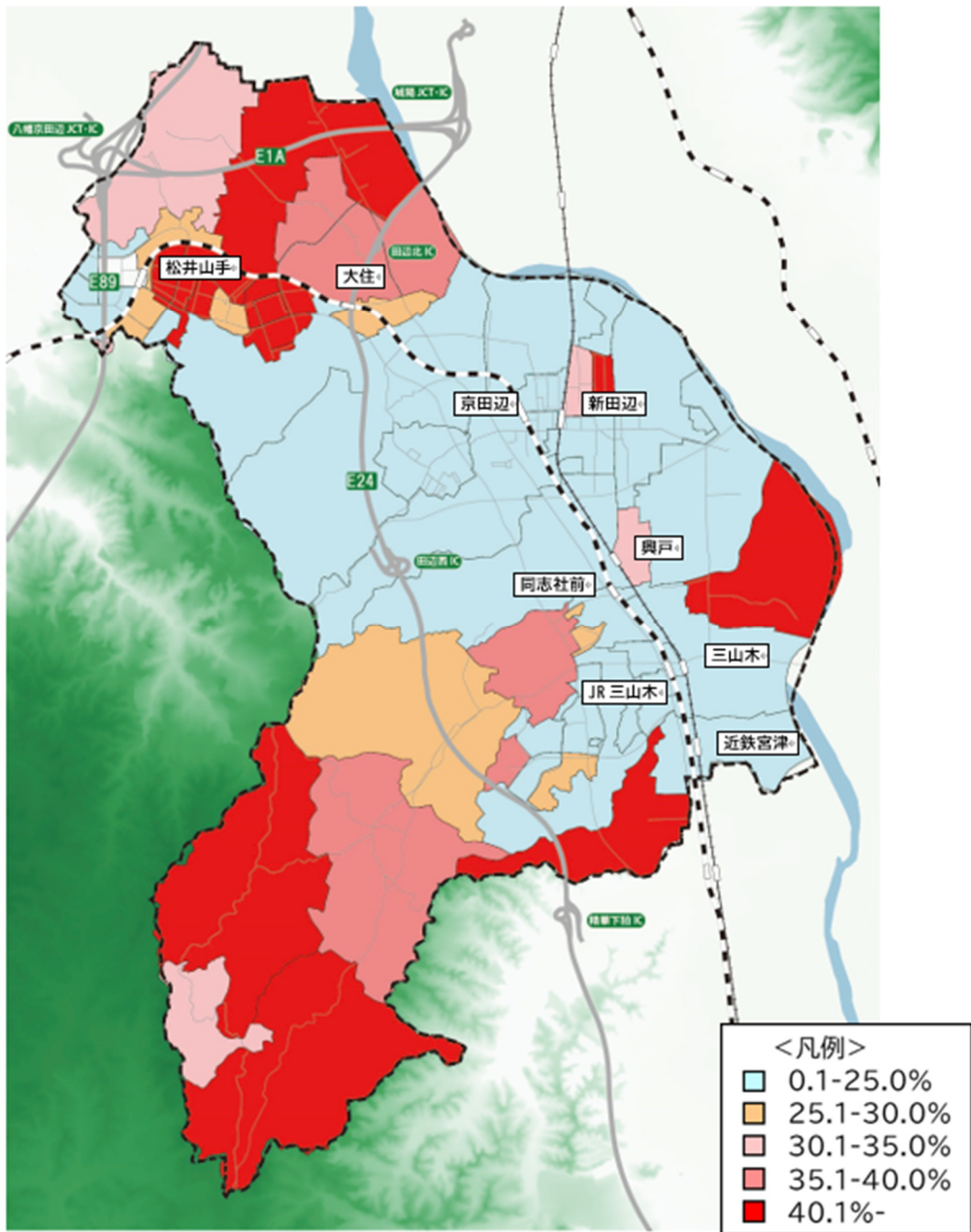


出典：国勢調査(令和2年)

図 人口分布

(3) 高齢化分布

- ・市北部では、田園集落及び昭和の後期に開発された松井ヶ丘並びに大住ヶ丘、中部では田園集落及び府営田辺団地、南部では山間及び田園集落において高齢化率が高くなっています。

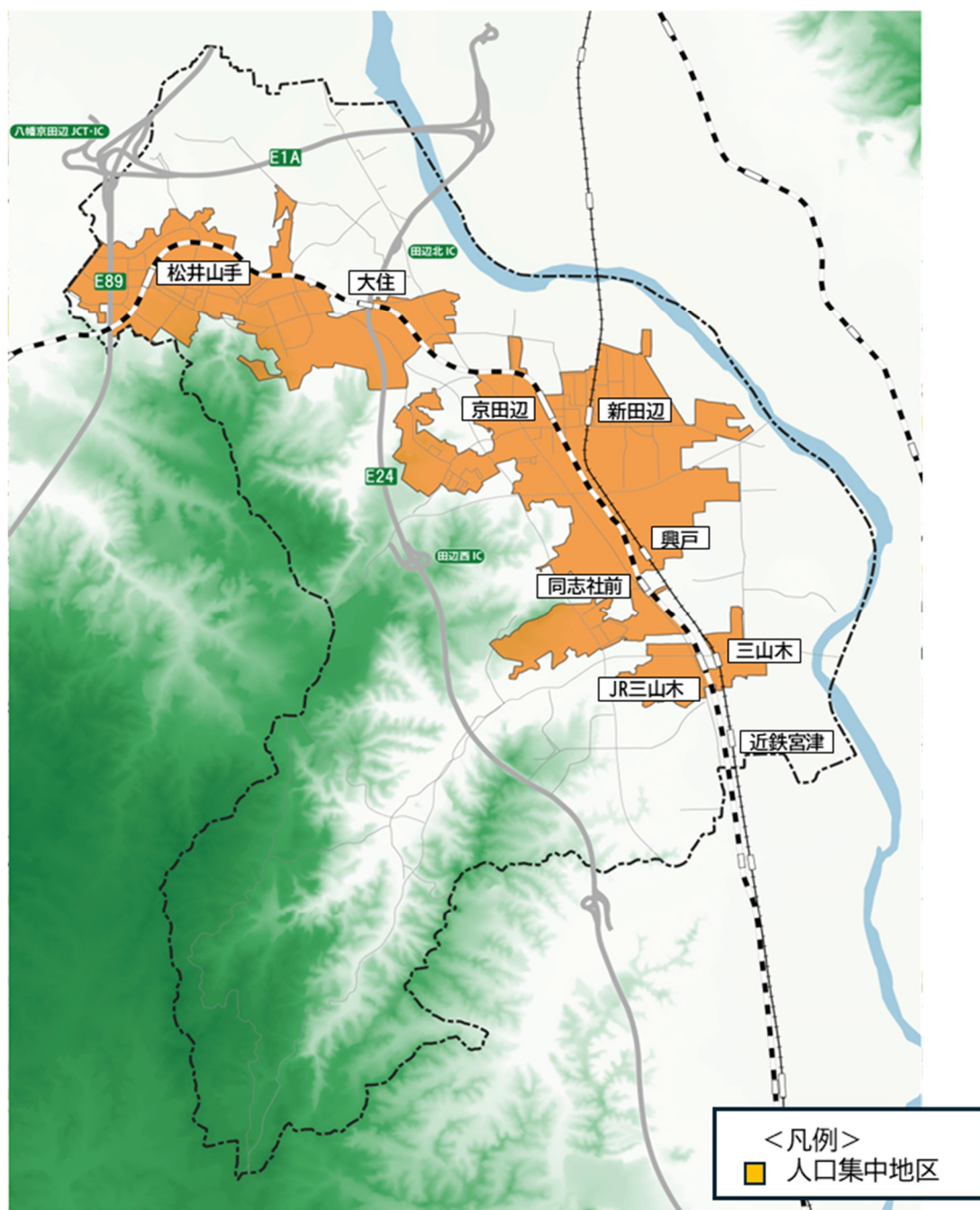


出典：国勢調査(令和2年)

図 高齢化分布

(4) 人口集中地区 (DID: Densely Inhabited Districts)

・ JR 京田辺駅・近鉄新田辺駅を中心として鉄道沿線に人口集中地区が存在しています。



出典：国勢調査(令和2年)

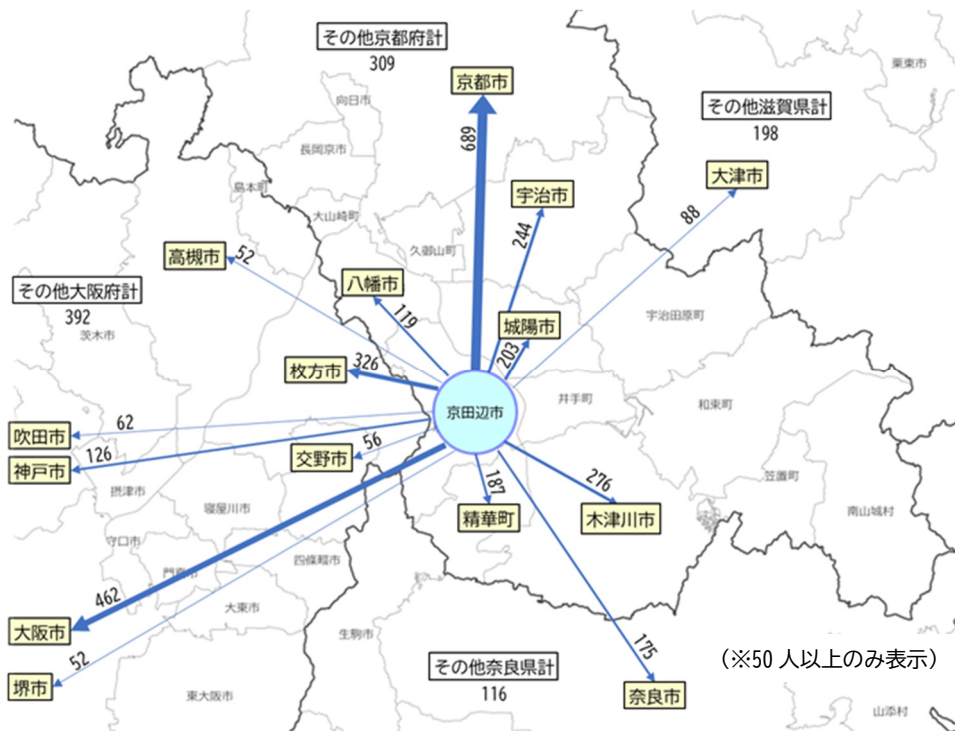
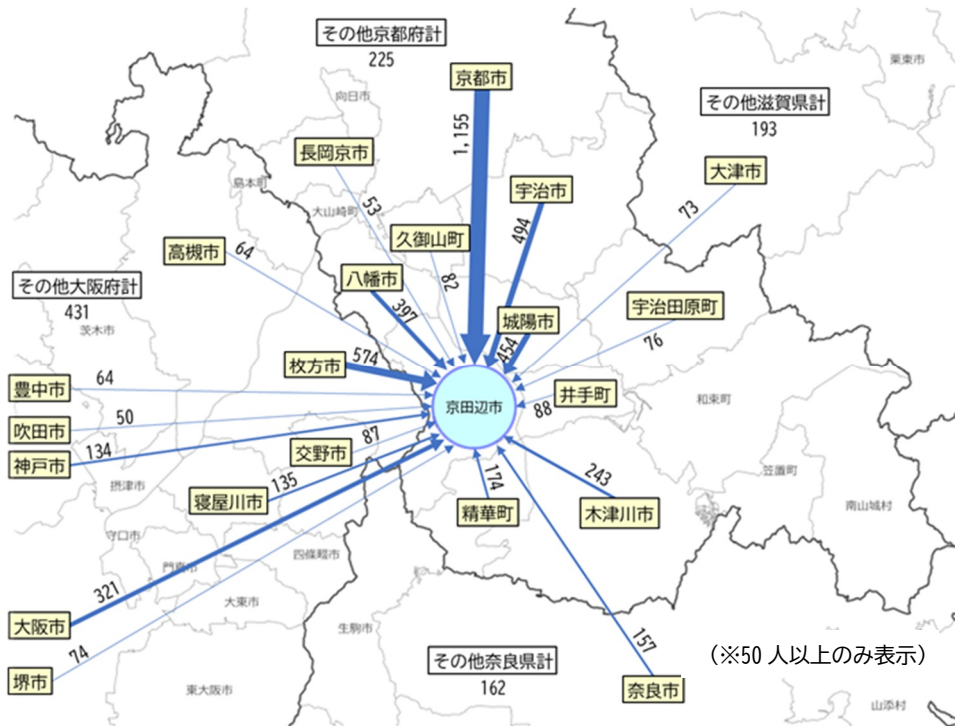
図 人口集中地区 (DID)

Check! DID (Densely Inhabited Districts)とは

統計上の地域区分で、「原則として人口密度が1平方キロメートル当たり4,000人以上の基本単位区等が市区町村の境域内で互いに隣接」して「それらの隣接した地域の人口が国勢調査時に5,000人以上を有する地域」に該当するエリアのことです。

(5) 人口流出入

- ・平成27年（2015年）から令和2年（2020年）までの5年間に於いて、本市への流入は、京都市からが最も多く、次いで近隣の枚方市、宇治市、城陽市、八幡市からの流入が多くなっています。
- ・本市からの流出も京都市が最も多くなっていますが、流入人口の半数程度に留まっています。

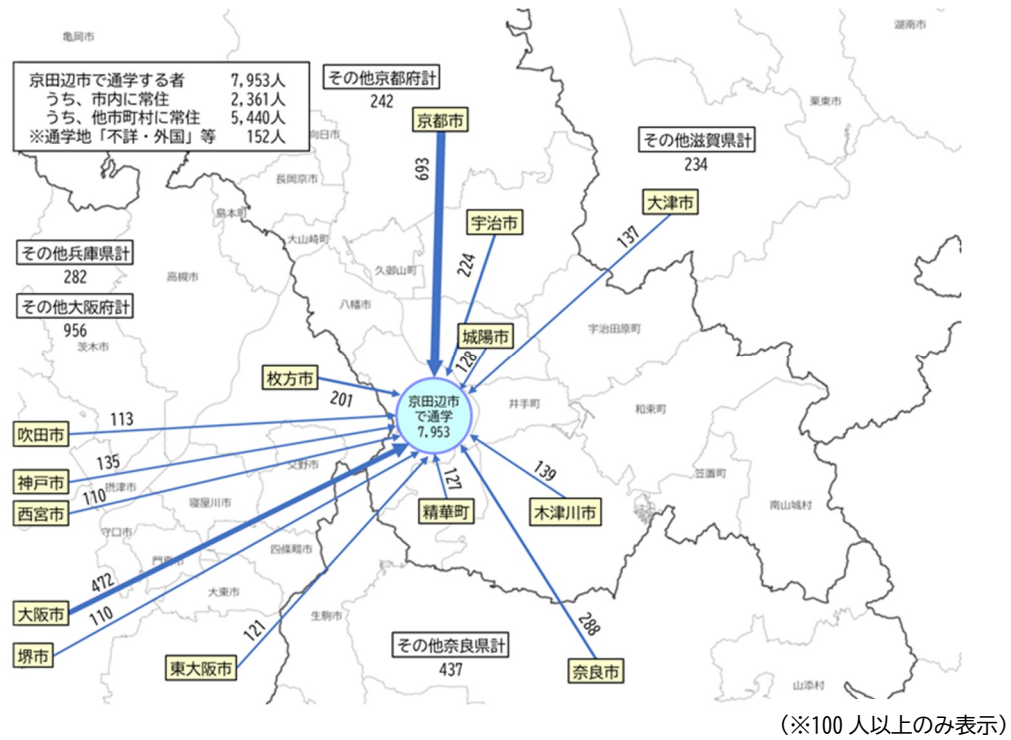


出典：国勢調査（令和2年）

図 流出入人口（平成27年→令和2年）

2) 通学流動

- ・本市から市外への通学者は、京都市への通学が多くなっています。
- ・市外から本市への通学者は、京都市、大阪市からの通学が多くなっています。

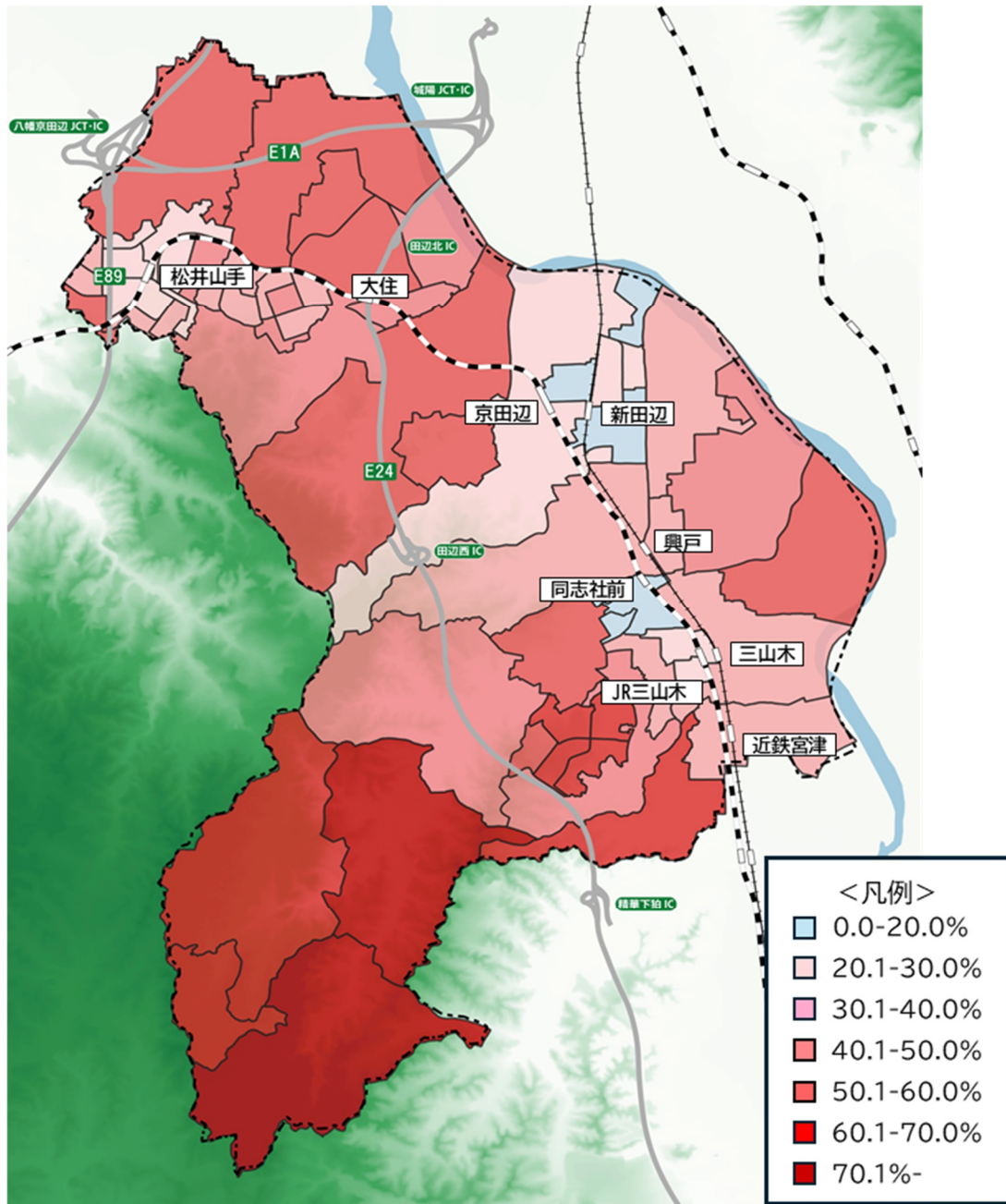


出典：国勢調査（令和2年）

図 通学流動

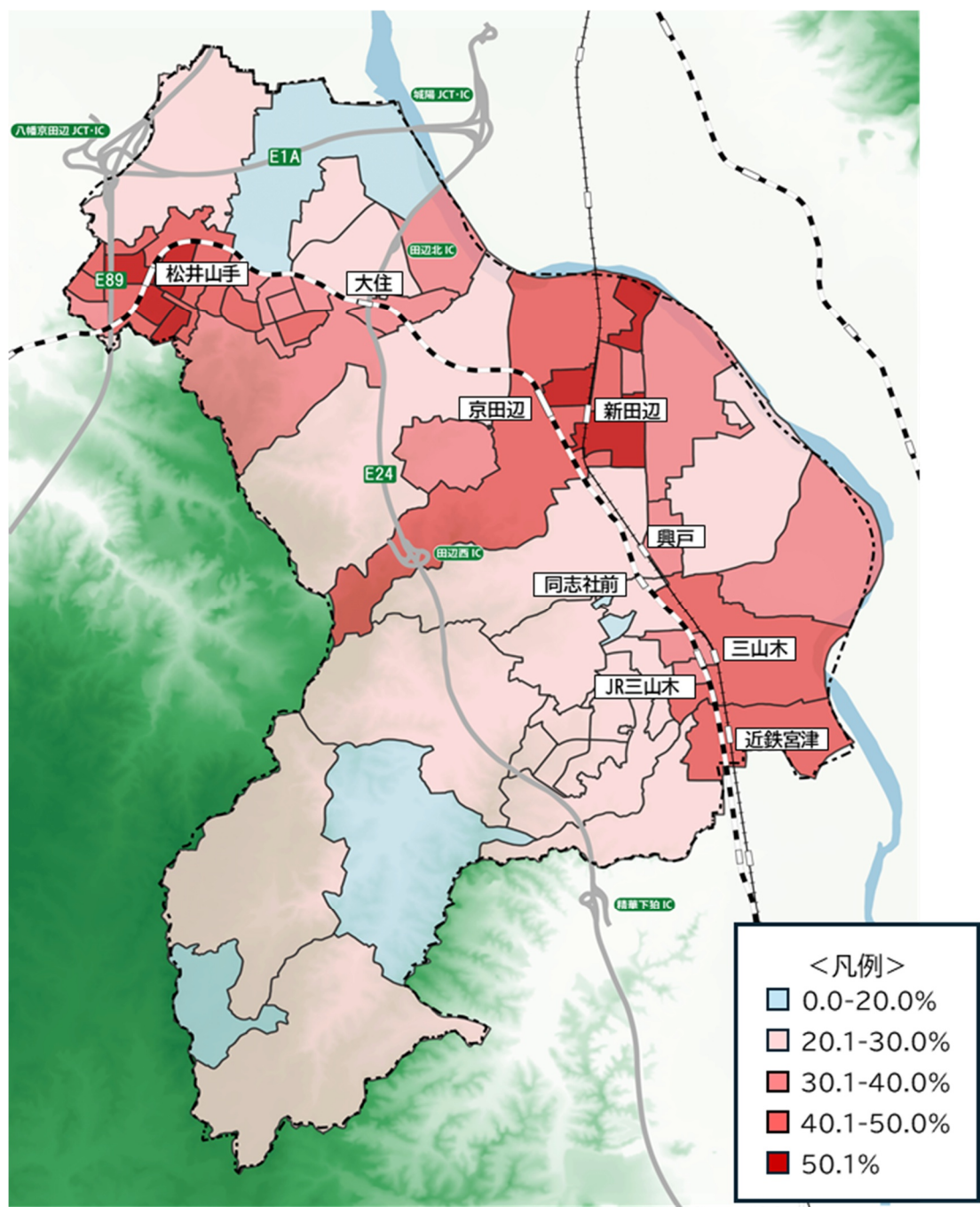
(7) 通勤・通学の利用交通手段

- ・市域の一部を除いて自動車での移動割合が高くなっています。
- ・拠点駅中心に鉄道での移動割合が高くなっています。
- ・路線バス利用割合の高い地域では、バス路線網維持の重要性が高くなっています。



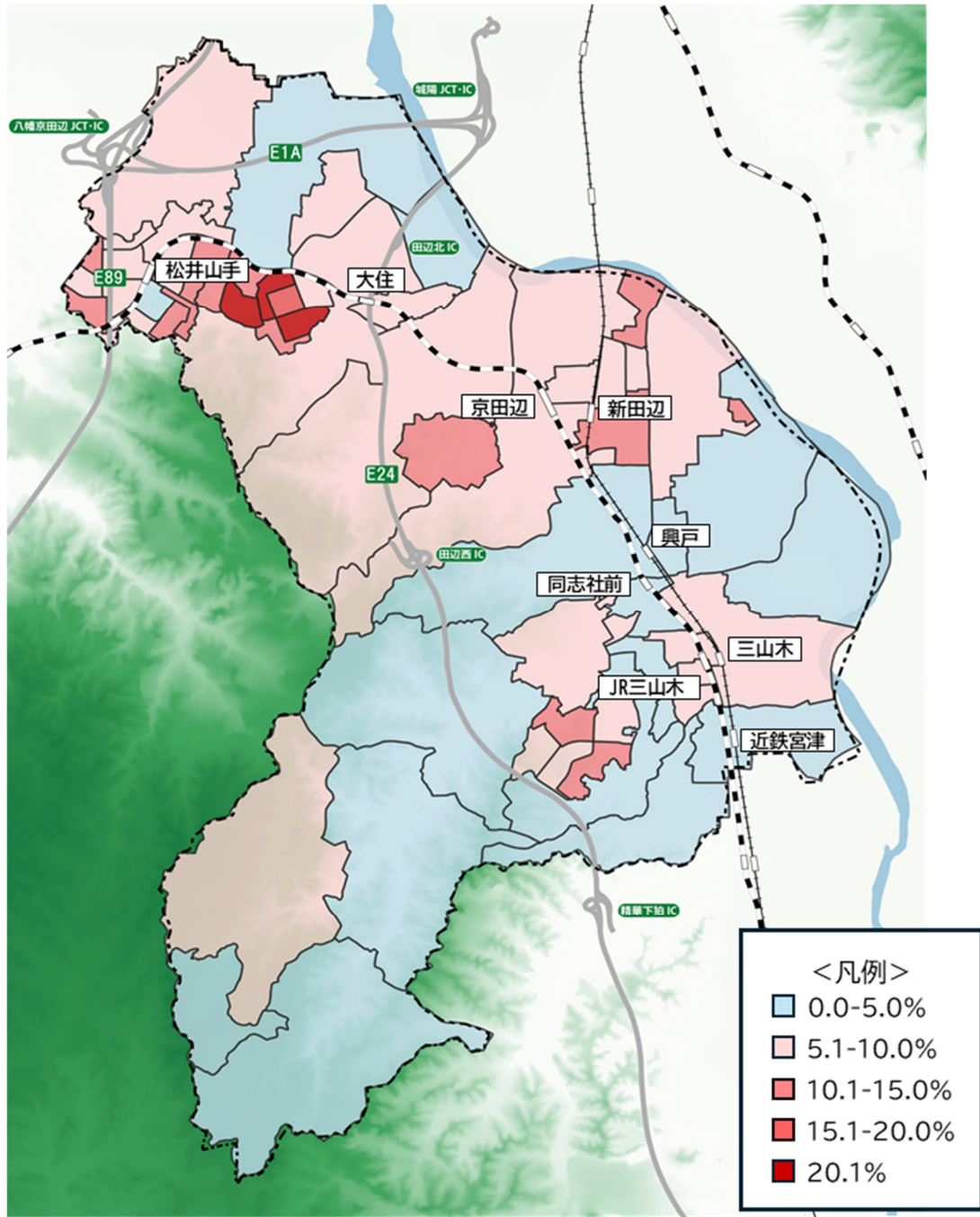
出典：国勢調査（令和2年）

図 通勤・通学時の利用交通手段割合<自動車>



出典：国勢調査（令和2年）

図 通勤・通学時の利用交通手段割合<鉄道>



出典：国勢調査（令和2年）

図 通勤・通学時の利用交通手段割合<バス>